

暗黙知化されている社会科学の 概念的礎石についての解説

法政大学キャリアデザイン学部教授 筒井 美紀

本稿の目的

概念的礎石というものがある。それらは、研究者にとってはあたりまえすぎて、暗黙知として流通している。誰もわざわざ、説明はしない。そのため、大学院に進学したての初学者にとっては、丁寧に説明しておかないとずっとあやふやなままなのだ、と気づかれにくい。あるいは、気づかれていても、「それらは自分で気づいて独学するものだ。わざわざ教わるべきものではない。教わらないとわからないようでは研究する力はない」という考え方から、各自に任されている。

筆者は長らく、こうした考え方であった。だが、どのような教授スタンスで臨むかは、どのような大学院で教鞭をとっているのかによって柔軟に変更する方がよい、と最近考えるようになった。本稿は、「私がいま喋っているのは母語だが、聴き手にとっては習い始めたばかりの外国語と同じなのだ」と認識して、社会科学の暗黙知を解説する。

以下で解説する概念的礎石は大きく7つある。「命題」、「理論」、「テーマ」、「分析」、「分析枠組み」、「文脈」、「規範的」であり、それぞれ、派生的概念をもつ。それらも合わせて説明する。これらの概念の多くは日常用語でもあるから、初学者は何となくわかった気でいられる。しかし、これが危いのだ。たとえば、「テーマ」とは何か？「理論」とは何か？ 明確に説明できるようでない、あやふやな理解のまま進んでしまう。これを回避し、明確な理解を得ることができれば、自身の研

究を前進させることに役立つであろう。

命題

- ・ 命題とは、何かを断定した文章である。それは方程式により表現されることもある。たとえば、「PはQである（ではない）」「Sが増えるとTは減る」
- ・ 疑問形の文章は命題ではない。
- ・ 仮説とは、検証が必要な仮の説であり、命題の一種である。したがって、仮説を提示するときは断定形（平叙文）で書く。仮説を提示するまでの議論においては「…なのではないか」というように疑問文で書くにしても、その提示のさいは断定形にする。時制は問わない。

理論

- ・ 理論とは、物事の理解や洞察を深めるところの命題（何かを断定した文章や方程式）である。我々をして「ああ、なるほど、わかった！」と言わしめるところのものである。
- ・ 我々が「ああ、なるほど、わかった！」と叫ぶのは、物事のHow and Why（メカニズムと原因）が腑に落ちたときだ。かくして理論とは、物事のHow and Why（メカニズムと原因）に関する命題である。
- ・ 理論は、往々にして抽象度が高い。抽象度が高いゆえに普遍性や汎用性が高い。

- ・理論は命題の一種であるため、理論(的)命題、ということもある。
- ・理論的概念とは、理論命題に含まれる概念や、理論命題を一言で表わした概念のことである。たとえば「権力」は理論的概念である。その包みを広げていくと、権力に関する理論命題(群)になる——権力理論について本一冊もの分量、ということになる。

私たちは日常的にも権力という概念を用いている。だが、理論的に理解している人は少ない。だから、わかったつもりにならないで、「理論的にはどのようなことが権力について説明されているか」を理解する必要がある。

- ・理論的視点とは、理論命題や理論的概念を頭に浮かべながら物事を見るときに用いている視点のことである。よって視点とは、命題 and/or 概念である。
- ・したがって、ある理論を知らないと、それに基づいたものの見方(あるいは、その自覚的認識)は生じない。
- ・理論的解釈・考察とは、理論命題や理論的概念を頭に浮かべながら物事を解釈・考察しようとしている理解のことである。したがって、何かの観察に基づく、5W1Hの記述にちょっとした意見・感想を加えた文章は、理論的視点・理論的理解が欠けていることになる。

テーマ

- ・テーマとは、真偽や善悪や賛否をめぐる議論を引き起すところのものである。Theme is argument.
- ・したがってテーマは、疑問形で表現できる。たとえば、「欧州においてイタリアのCOVID-19による感染者数と死亡者数が際立って多いのはなぜか?」——「イタリアは欧州で高齢化率が高いから」「イタリアは欧州で三世帯同居が多く、スキンシップが盛んだから」——really?・・・と真偽をめぐる議論を引き起す。
- ・テーマは何ですか?と訊かれると、「～について

と答える人が多い。が、テーマを疑問形で表現する習慣をつけることをお勧めする。なぜなら学術論文とは「謎解き物語」であり、解明課題の設定がアルファでありオメガであるといっても過言ではないからだ。上記の例でいえば、「イタリアのCOVID-19について」と表現しても、アピーリングでない。

分析

- ・分析とは、5W1Hを、とりわけHow and Why(メカニズムと原因)を、詳細に突きとめていく作業のことである。
- ・前述したように、理論とは物事のHow and Why(メカニズムと原因)に関する命題であるから、分析を行なうには、当該テーマに関する諸理論を理解していることが必要になる。
- ・分析的とは、5W1Hを、とりわけHow and Why(メカニズムと原因)を、詳細に突きとめていく作業がなされているさまのことである。
- ・分析概念とは、分析作業を行なうさいに有効に働く概念のことである。喩えて言うなら、それは包丁である。肉を切るには、菜切り包丁よりも肉切り包丁のほうがより有効である。
- ・記述的(にすぎない)とは、How and Why(メカニズムと原因)の探究が不充分/欠如しているさまを指すことが多い。だからといって、これは、記述の不要を意味するものではない。分析には前提として記述が不可欠である。ベターな記述はベターな分析を生みやすくする。

分析枠組み

- ・analytic framework = 分析のための枠組み。建築・建設のメタファー。枠を組む・枠(骨組み)を作る目的は、その内部が揺らがず一貫性のあるものにするこことである。分析枠組みも然り。したがって分析枠組みは、理論(的命題、的概念、的理解...)を反映したものである。

文脈（コンテクスト）

- ・ 文脈とは、なぜ & どのように物事が生じた／生じているのかを理解させるところの状況や背景のことである。物事が生じるメカニズムは単純ではなく、原因は一つではない。ゆえに文脈は複数形 contexts である。
- ・ contexts=con+texts, 関連語に、texture (生地・織物) がある。その織りなされ具合を紐解いていく=分解していくのが、分析という作業である。
- ・ 文脈の紐解きには、誰が・何を・いつ・どこで・なぜ・どのように生じさせたかを突きとめることだけでなく、それらの意味を説明する概念や理論の理解を掘り下げていることが不可欠である。

規範的

- ・ 規範的 (normative) とは、或る価値判断を下しているさまのこと——「べき論を述べている」ということである。私たちは日常的に、物事の事実認識と、それに基づく規範的判断 (価値判断) とを行なっている。
- ・ 事実認識自体が、規範的前提 (normative assumption) に左右されている。たとえば、「生活保護に頼る人は怠けてきた人だ」という「事実」認識は、「自分は勤勉に頑張ってきたから福祉の御世話になっていないのだ」という「事実」認識、さらにその背後には「人間は怠惰でいてはならない」という規範的前提があろう。規範的前提は、当人には意識されにくい。当人の価値観を対象に投影しているからである。
- ・ assumption (前提) は命題の一つだが、「憶測」という意味もあることが示唆するように、考え抜かれていない命題である。
- ・ 学術的研究も、政治的議論も、それぞれ、人間／社会についての、規範的憶測・前提をもっ

ている (よい人間とは…望ましい社会とは…)。したがって、よりよい研究を目指すのであれば、自らの normative assumption (前提・憶測) に対して自覚的・自問的である必要がある。すなわち、自己の価値判断はどのような価値判断なのか、それにはどのような反論や異見が向けられているのか、また逆に、それらの反論や異見にはどのように応答できるのか知的に格闘しつつ、鍛え上げていくことである。つまり、単なる normative assumption (前提・憶測) を normative foundation (土台) へと鍛え上げていくことである。

- ・ normative foundation (土台) への鍛え上げに必要なのは、分析概念であると同時に規範概念でもあるような概念について理解を深めることである。そうした概念としては、freedom, equality, equity, human rights, social rights, citizenship, community, justice, (social) needs, well-being, autonomy, capability, accommodation…などがある。
- ・ 分析概念であると同時に規範概念でもあるような概念は、趨勢概念 (momentum concept) としての性質を有する。momentum とは、辞書的には「動くことで力を得ていく」という意味である。学術的文脈では、「動く」は「動かす」、つまり、その概念の意味を広めたり深めたりする作業のことであり、「力を得ていく」とは、その概念の、物事に切り込むさいの切れ味がよくなっていくことである。概念は、また、概念と概念との関係は、固定的・静態的ではなく、変動的・動態的である。どのような鋭い切れ味を、したがって或る概念が事象の豊かな理解を示すかは、研究者がそれをどう「動かす」か次第である。

おわりに

Good luck in your research.

Elucidating the Meaning of Some Tacit Conceptual Foundation Stones of Social Science

TSUTSUI Miki

Since conceptual foundation stones of social science are “a matter of course” for scholars, they don’t usually bother to be explained to you – a master course student, who is at entry level. Can you explain clearly the meaning of such terms as proposition, theory,

theme, analysis, frame of analysis, context, and normative? The purpose of this paper is to elucidate the meaning of these seven tacit terms. Clear understanding of them will help you advance your research.